

# 広がる「アマビエ」の輪

九州のアーティストらも続々作品化



安藤圭汰さんのアマビエ。光とともに海から現れた



田中千智さんのアマビエ。「大丈夫だよ」と子どもを励ましている様子

姿を描き写せば疫病を封じるとされる謎の妖怪「アマビエ」。新型コロナウイルスを中心に広がっている。九州のアーティストも、それ

い中、絵やイラストを発表する動きがインターネットを中心に広がっている。九州のアーティストも、それ  
それぞれの持ち味を生かしなが、肥後（熊本県）の海中に現れた。京都大所蔵の瓦版には、長髪、つるこに覆われ、くちばしと3本の足を持つ



小川剛さんのアマビエ。掲載している崇城大のホームページでは、ご利益に期待しつつ基本的な手洗いやうがいを忘れないよう呼び掛ける

姿が描かれ、「疫病が流行したら私の姿を写して人々に見せよ」と役人に伝えたことが記される。  
画家の安藤圭汰さん（福岡市）は「伝承の通り多くの人に見せたい」と描いた。少し恐ろしいけど強そう。知人から誘われて描いたという田中千智さん（同）のアマビエは、子どもに寄り添う守り神のよう。それ

それフエイズブックで公開している。絵本作家、イラストレー  
ターの山福朱実さん（北九州市）は版画を制作。知人の店舗に飾られるなど拡散している。崇城大（熊本市）芸術学部の小川剛准教授は

## 文化

ファクス 092 (711) 6243  
メール bunka@nishinippon.co.jp

かわいらしくキャラクター化した。にわかには有名になったアマビエだが、実際にどの程度認知されていたかは不明だ。熊本大の鈴木寛之准教授（民俗学）は「アマビエが言及される史料は京大所蔵の例がなく、熊本でも伝承は確認できない」と話す。似た名前の「アマビコ」が同様のお告げをした記事は多く残るため、名前を誤記して伝わったとする説も有力という。（諏訪部真）



山福朱実さんのアマビエ。版画にすることで、京都大所蔵の瓦版と同じ空気を帯びた